2016.06.16

新会長に聞く

関東コイルセンター（CC）工業会の6月の総会で3期6年を務めた西山寛氏（西山鋼業社長）からバトンを引き継ぎ、第11代目の新会長に就いた藤澤鐵雄氏（藤澤鋼板社長）は、会員の結束を促し、事業活動を活性化させ、団体としての存在感を高めることに尽力するとともに、業界の発信源としての役割も担っていくと強調する。

関東コイルセンター工業会

藤澤 鐵雄氏（藤澤鋼板社長）

「業界アイデンティティ」確立へ

――心境から。

「前任の西山会長とともに6年間、副会長としてCC工業会の運営に携わってきた。会長になったからといって路線をガラッと変えるつもりはないが、やはり最終的な決断をし、業界の繁栄や企業の成長につながっていくわけだから重責を感じつつ、事業やイベントなど種々の活動を通して個々の会員が事業の継続・発展に向かって自助努力するのを側面からサポートすることでお役に立ち、それを工業会の存在意義につなげていければと思う」

――事業運営・活動方針について。

「いま、工業会の事業はどれも充実している。経営者懇談会は健全かつ本音で情報・意見交換し、実務者研修は第一線クラス同士の交流が出来ている。小集団活動発表交流会は年々レベルが向上し、最近は関東以外からも参加するなど中身が濃くなった。このほか人材教育や安全作業、設備保全に関する研修、モノづくり現場の視察や労災情報の共有など多岐にわたる取り組みは、どれもこれまでもたびたび「加工賃問題」について言及されています。

「適正加工賃の確保は、実際には個々の企業が取り組むべき課題だ。とはいえCCに共通するテーマでもあるから、そのところだ。健全な業界形成にはメーカー、商社、CC、ユーザーのそれぞれが『WinWin』すなわち『Win×4』の関係を構築することが望ましいし、その環境整備が『業界アイデンティティの確立』につながるんだということへのご理解を、強く申し上げたい」

――工業会は創立50周年を迎えます。

「来年2月に記念式典の開催を検討している。先人が基盤を築き、諸先輩方の努力によって歴史を形成してきたご努力に感謝するとともに、大きな節目を迎えるこの機会に会長職を受け継いだことに意義も感じている。工業会が次の60年、70年…と永続していけるよう、しっかりと守っていきたいし、次の世代に円滑につなげる役目も担っていきたい」

――最後に抱負を。

「常に業界に共通する問題を提起し、解決の糸口をさぐりながら会員の総意をまとめ、内外に発信していくことが必要だと思っている。幸い、今の工業会にはその土壌ができており、交流・親睦の場もあるから、それをさらに充実させたい」

「また、当会は全国CC工業組合の東日本地区組織との位置づけでもあり、実際に全国の組合員数の約4割%を占める。全国の活動を支える中核的役割との使命も意識し、全国の鈴木貴士理事長（五十鈴グループ代表）の提唱する『業界ストラス向上』へ共同歩調をとっていきたいと考えている」

（太田 一郎）

事業活性化で「発信源」担う